



河原 茂晴

河原アソシエイツ
代表

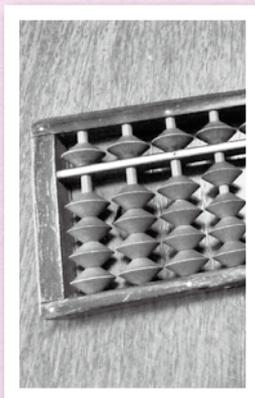
Manifest Destiny

アメリカ人の好きな言葉に Manifest Destiny (定められた運命とでも訳しましょうか) というのがあります。たまたま大学受験のない付属校へ行ったので、体育会端艇部で3年間、国体にも出場でき、体育会系のノリができました。コロナ禍でも元気一杯ですと言われるのは培われた健全な肉体のお陰です。そして会計士試験受験のきっかけは、大学3年の12月、三田の山食で友人と会って就職の話となり、それまで会計士の存在すら知らなかった私に友人はその未来を熱っぽく語ったものでした。近所の算盤塾に行き、大学生の私が小学生の仲間に入れてもらい、会計士受験は算盤からのスタートでした。その算盤が今も残っています。そして試験に合格すると普通は監査法人に就職するのですが、自分で決算を締める側に立ちたくなくて、ソニーに就職しました。ソニーの Catch Copyは「君の人生のバランス・シートをソニーで豊かにしよう」なのです。昔からこういった人寄せは上手だった。本社の経理財務、TV工場の原価計算、米国子会社のコントロー

ラー、本社での海外事業管理などずっと経理財務の現場におりました。上司のCFOが各人の能力を定点観測して、人材育成に取り組んでくれたお陰です。そして盛田さんが厳しかった。「一人ひとり、違った意見を持っているから、価値がある。会議や議論の場では、それぞれの意見をはっきりと発言してほしい。そこにあなたがいる意味があるのであり、そうしないのなら、いる意味はない」とも。給料は安かったけれども、挨拶・酒の飲み方から始まって、盛田さんからの薫陶も受けて、社会人としての基礎を学ぶことができました。

その後ご縁があって、KPMG (いまのあずさ監査法人) に転職しました。ソニー23年間の実務経験が非常に役立ちましたね。

こういう私を育ててくれたのは、経済同友会でのさまざまな方々との出会いであるのは間違いないのですが、一番感謝している Manifest Destiny は、何と言っても Wife との出会いであり、3人の子どもたちでした。米国駐在時代の写真ですが、みんな若かった！ (笑)。



(左) 戸田の艇庫にて。(中) 今でも書棚に飾ってある算盤。(右) Wifeと子どもたちが私を育ててくれた!